

大豆生産者の作業を軽減

## ドローンで大豆の病害虫防除

8月26日(日)～

8月26日～9月11日にかけて、ドローンで大豆の病害虫を防除。管内5カ所の生産組合を中心に、総面積48ヘクタールで実施しました。

例年は生産者がそれぞれ乗用管理機で薬剤を散布されていましたが、今年度は当JAがドローンを導入したことから防除を依頼されました。生産者は、「稲刈り時期と重なり、防除作業をするのが大変でした。JAが作業を請け負ってくれることになり、とても助かる」と、作業の省力化を喜ばれていました。

当JAは8月にドローンを1機追加し、オペレーターも3人増員。雨天が続いた中、仰木と真野では晴れ間に初めて2台のドローンで手分けして作業し、無事に防除が完了しました。

オペレーターを務める南営農経済センターの田中センター長は、「カメムシと紫斑病防除は、収量と品質に大きく左右する重要な作業の一つ。しかし、稲刈り時期と重なることで苦労されていました。JAが生産者にかわってドローンで薬剤を散布することで少しでも苦労を軽減し、生産力・所得の向上につなげていきたい」としています。



ドローンで大豆の病害虫防除を実施。カメムシと紫斑病防除は、収量・品質に大きく左右する重要な作業の一つです。